

陸奥湾におけるイタヤガイの成長

田中 俊輔

はじめに

陸奥湾々口部の平館村、津軽海峡に面した今別町では、ホタテガイの稚貝採取、第1回分散時(9～10月)に僅かではあるがイタヤガイの付着がある。付着時期・数量については未調査であるが、この度今別産イタヤガイ49個を当所前の試験筏に垂下し、個体別に成長を調べたのでその概要を述べる。

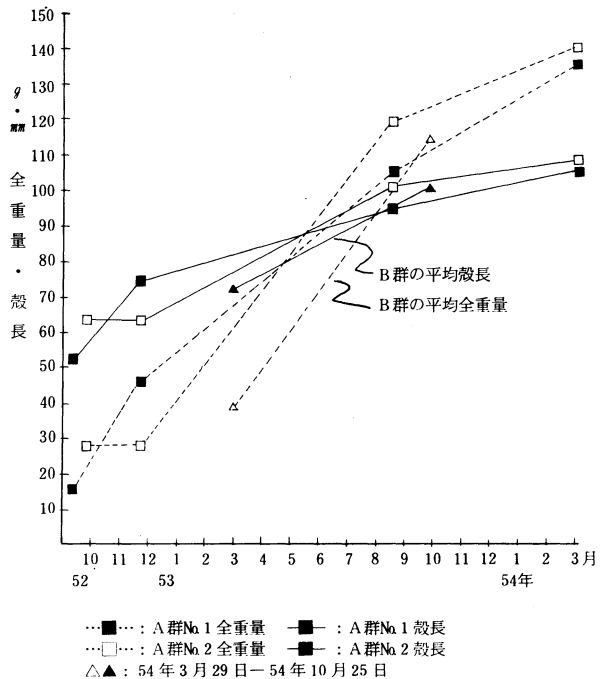
材料と方法

1. 垂下期間：昭和52年10月25日～54年3月29日
2. 試験項目：イタヤガイの成長
3. 垂下場所：当所前試験筏、水深6m
4. 供試イタヤガイ
 - ：今別西部漁協で入手した52年産イタヤガイA群9個体(10月25日)、53年産イタヤガイ40個体B群(54年3月22日)
5. 方法：各イタヤガイを当所に運搬後、個体別に成長をみるために縁無し丸籠に接着剤で固定後垂下した。

成長結果の要約

垂下期間中の同一個体別の成長を第1図に示す。A群No.1は殻長105.0mm、全重量135g、No.2は殻長107.7mm、全重量140g、生残率22.2%であった(54年3月29日)。

54年3月29日から10月25日までのB群の平均増殻長は28.6mm、平均増重量は76.4g、生残率32.5%であった(54年10月25日)。



第1図 イタヤガイの個体別成長